

令和7年度全国学力学習状況調査の結果について

京都市立朱雀第四小学校

校長 岡西 容美



4月17日に、本校6年生を対象に実施された「全国学力学習状況調査」について、結果をお知らせします。本調査は、国語・算数・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されています。

総合結果（国語・算数・理科・質問紙）

国語科・算数科・理科の全ての教科において、全国平均・京都府平均ともに上回りました。質問紙では、算数科について「どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」「小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか」という質問について、全国・京都府と比べ高い傾向が見られました。学習活動を通して、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら主体的に活動する姿勢が見られます。

国語科について

全体的によくできています。特に「読むこと」について、メモや資料を読み、内容の大体を捉えたり、複数の資料に書かれていることを自分でまとめて書いたりする問題について、高い正答率を示しました。しかし、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることに課題が見られました。大体の内容は捉えられていても、問われている目的や意図に沿った情報を取捨選択することができていないことから、今後、文章や図表など様々な資料から目的に合った情報を見つけて活用できるような学習活動を展開していきたいと思います。

算数科について

全体的によくできています。特に「数と計算」や「データの活用」などの領域において高い正答率が見られました。しかし、数や言葉を用いて、問われていることに応じた説明をすることについては課題があります。例えば分数について、共通する単位分数を求め（通分して）計算することはできても、なぜ通分をするのかをとらえられずに、問われていることに応じて数や言葉を用いて説明することが難しいという点に顕著に表れていました。今後も解き方を友達と学び合う中で、自分の考えを深めたり広げたりしながら、知識を目的に応じて活用できるよう手立てを考えていきたいと思います。

理科について

全体的によくできています。特に「生命」を柱とする領域において、発芽の条件について差異点や共通点を基に、新たな問題を見出し表現する問題や、電流の回路の作り方について実験の方法を発想し表現する問題について、特によくできていました。一方、顕微鏡の操作の仕方については課題も見られました。今後も実験器具の操作について実験する機会を増やす等、体験を通して、知識・技能を身に付けられるようにしていきたいと思います。

質問紙より

「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目でそれぞれ90%以上が当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答し、全国・京都府と比べて高い傾向が見られました。今後もさまざまな学習、活動を通して自ら考え、主体的に行動しようとする姿勢を育てていきたいと思います。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、「自ら学ぶ朱四舎の子～豊かな心を育み、生きる力を育てる～」を学校教育目標として、子どもたちがあらゆる角度から、総合的に深く考えることができるように、また課題解決に向けて主体的に活動できるように、さまざまな教科・領域とのつながりを探り基礎・基本の学力の定着を図っています。

全国学力状況調査は、今の子どもたちの学習状況を知り、明らかになった課題から子どもたちに必要な手立てを考えていくための調査です。結果が学力の全てを表しているのではなく、他と順位を競うものではありません。学力は地道な積み上げにより定着をしていくものです。子どもたちに健やかな育ちと学びが見られるよう、これからも引き続き、ご家庭でのお声掛けと本校教育活動へのご協力・ご理解をお願いいたします。